

親子聖書日課

[日]親が子供を抱っこするのは、幼い時だけですが、主は年老いても背負って下さり、全ての重荷を負い、罪と死の滅びから救い出して下さいます。私達の人生は、もう一つの足跡があります。それは主の足跡ですから、安心して委ねましょう。

[月]罪深い人間は、神の裁きによって、跡形もなく、わらのように燃え尽きてしまいます。しかし、この恐ろしい裁きから私達を救い出すために、主は身代わりとなりました。主こそ贖い主です。主を信じるなら、朽ちない体に復活するのです。

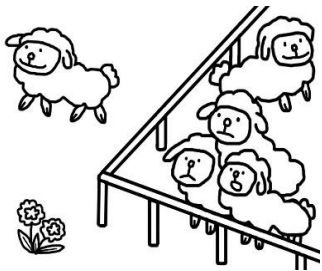
[火]「これを聞け」とは、よく聞くことでも、納得することでもありません。聴き従うことです。民は主の言葉に聴き従わなかったために、大変な苦しみに遭いました。主は御言葉を通して、「これから起こる新しいことを知らせ」て下さるのです。

[水]「平和は大河のように、恵みは海の波のように」与えられるためには、「主の戒めに耳を傾ける」ことです。それは「主のもとに近づいて、聞く」ことです。礼拝に参加するだけでなく、日々、聖書日課に励むなら、主の声は聞こえてきます。

[木]母の胎に在る時から、主の僕として召されたのは、イスラエルだけではありません。私達も主の僕として尊ばれ、力を与えられ、主の御業を成し遂げることができます。「主の救いを地の果てまでもたらす者」として使命を果たしましょう。

[金]自分の思うようにいかないと、主に見捨てられたと思う人がいます。しかし、主は私達を「忘れることは決してない」のです。必ず、苦難から救い出して下さいます。ですから、諦めないで祈りましょう。主はご自分により頼む人を待っておられます。

[土]「自分の火の光に頼って」いては、試練の時、倒れます。「世の光」主に頼るなら、闇の中からも脱出できます。主に頼るとは、「朝ごとに」主の弟子として、御言葉に聴き従うことです。必ず、主の力が与えられて、日々、光の中を歩めます。



NO.1898 2025.2/9-15

名前

	聖書	問題	答え
日	イザヤ 46:1-13	主は私達の老いる日まで、どうして行こうとされますか。	
月	47:1-15	見よ、彼らは何にすぎず、火が彼らを焼き尽くしますか。	
火	48:1-11	主はこれから起こるどんなことを知らせてくださいますか。	
水	48:12-22	主の戒めにどうするなら平和は大河のようになりますか。	
木	49:1-9	主の救いをどこまでもたらす者としますか。	
金	49:9-26	主はあなたをどうすることは決してありませんか。	
土	50:1-11	主なる神は、いつ私の耳呼び覚ましますか。	
		感想と祈りの課題	